

米国テレビドラマにおけるアジア系女性像 － 1990年代の中国系女性像を例に－ Asian American Women on the U.S. TV series, the representation of Chinese American Women in 1990s.

俣野 裕美
Yumi Matano

同志社大学社会学研究科メディア学専攻 Doshisha University, Graduate School of Social Studies

要旨・・・本論は、1990年代のアメリカのテレビドラマに登場するアジア系女性の表象を明らかにし、その社会的意味を考察したものである。分析の結果、アジア系女性は米国が理想とする価値を保有した白人から助けられる人物として表象されていたことが分かった。このような表象は、米国の歴史上、白人がアジア系女性を従属的な立場に置いたことを正当化し、今後もこのような立場が続くことが望ましいとする認識を人々の間に形成する社会的意味があることを述べた。

キーワード 米国のテレビドラマ、アジア系女性、表象、人種差別

1. はじめに

米国のメディア、特に映画やテレビドラマなどのエンターテインメント作品は、常に世界中からの注目を集め、各国の人々から多くの支持を得ている。しかし、その絶大な人気とは裏腹に、人種的マイノリティの描き方に対して様々な問題点が指摘されており、長年に渡って研究者や抗議団体等が批判を続けているということも事実である。本研究では、四大ネットワークにてプライムタイムに放送された米国製のテレビドラマに登場する、アジア系女性の表象を分析し、その社会的意味について考察した。

2. 研究の目的

米国では、メディア作品の影響力の大きさ故に、女性や性的、人種的マイノリティなどの表象分析が盛んに行われてきた。中でも人種的マイノリティをテーマとした研究は古くから積み上げられてきた。しかしながら、米国人種言説は白人と黒人の二分法で語られる風潮にあり (Locke 1998)、相対的に比較した場合、アジア系の表象研究の数は少なく、十分に議論されていない傾向にある (Mastro 2000; Ono and Pham 2009)。また、アジア系の表象を扱った研究では、対象メディアが映画がとなることが主であり、テレビドラマにおける表象には深い分析が行われているとはいえないのが現状である。特に、人種と性の両方から差別される可能性のあるアジア系女性の表象は、研究の進展が求められる分野である。

メディアは、その社会の政治的、経済的利益の構造を反映する形で物事を描く傾向 (Park and Wilkins 2005) がある。そのため、表象を読み解くと、そこには何らかの社会的な意味が内包されている。本研究では、米国製のテレビドラマがアジア系女性をどのように表象しているかを分析し、その社会的意味を考察することを目的とする。

3. 先行研究

メディア上のアジア系表象を扱った研究においてまず指摘されるのが、アジア系の人々は映画、テレビ、雑誌等に取り上げられる機会が乏しいことである。アジア系の役者は活躍の場が限られており、通行人等の端役しか獲得できず、演技のキャリアを積む上で白人よりも困難を感じることが多い。アジア系がメディア上に登場した場合には、その描写のステレオタイプ化が問題視される。アジア系の男性ならば、周囲に脅威を与える「イエロー・ペリル」像、もしくは弱々しく魅力に欠けた男性像が一般的である。女性ならば、「イエロー・ペリル」の女性版ともいえる、冷酷で攻撃的な「ドラゴン・レディ」、男性に従順で寡黙な「ゲイシャ・ガール」、「チャイナ・ドール」などが存在する。また、女性は男性 (主に白人男性) に性的な快楽を与える妖艶な (Hypersexualized 性的魅力を過度に付与された) 姿として描かれることも多い。これらは古くから存在する表

象形態だが、近年では、勤勉で優秀ではあるものの、競争心が強く社交性に欠ける「モデル・マイノリティ」像も見られる。

(Ono and Pham 2009; Shimizu 2009; Praso 2005; Feng 2002; Lee 2000; Mastro 2000; 村上 1993) これらの研究結果は、主に映画の分析を中心に得られたものである。テレビドラマを対象として研究を行った Hamamoto (1994) は、ドラマ上のアジア系のイメージが、米国が関与したアジア諸国における戦争や外交の状況と密接に結びついて作られていることを明らかにし、高く評価されている。彼の著書をきっかけとして、テレビドラマの表象にも徐々に目が向けられるようになった。以降、テレビドラマ上のアジア系の人物像に関する詳細な分析を行って、上述したステレオタイプの付与を指摘する研究は散見されるようになったものの、他の登場人物との関係性の中でアジア系がどのように描かれているのかについては、あまり追及がなされていない。加えて、複数のドラマ作品を比較分析したものもあまり見られない。このような状況から判断すると、人物像だけでなく、他の登場人物とやり取りを行う中でアジア系の人々がどのように描かれているのかについて、複数のドラマと関連させて考察することが求められていることが分かる。本研究では、アジア系女性を主題にしてこのような課題に取り組みたい。

4. 研究方法

研究対象とする作品を選定する際、数ある米国製のドラマの中からアジア系女優が出演した全てのドラマ作品を把握、分析することには困難が伴うことが判明した。アジア系女優が出演していたとしてもクレジットにも名前が挙がらない端役の場合には、作品を見つけることができない。また、作品自体が DVD やビデオ等の媒体になっていない場合は、作品の入手、視聴が難しい。また数話のうちに打ち切りになったものについては、ストーリーの流れを追うことができず分析対象として適さない、などが主な原因である。これらのことを克服するため、作品の選定においては次の基準を用いた。社会への影響力が大きい、四大ネットワーク (ABC, CBS, NBC, FOX) にてプライムタイム (東部時間 19~23 時) で放送された作品の中で、30 回以上の放送が続いていること。そして、一つのシーズンにアジア系女優が 8 割以上出演しており、DVD、もしくはビデオ化作品であること、である。これらの基準によって、正確に作品を把握できるようになり、視聴、分析が可能になる。また今回の研究では、対象作品の時代を、米国のエンターテインメントが多文化に目を向け始め、アジアの中でも東アジア文化への関心が高まった 1990 年代に放送が開始したものとする (Park 2004)。さらに、この「アジア」系を「東アジア」系と限定し、国としては日本、韓国、中国系の女優を対象とすることにした。この基準を元に作品を検索したところ、*Twin Peaks* (1990-1991:ABC), *ER* (1995-2004:NBC), *Ally McBeal* (1998-2002:FOX) が該当した。この三作品には全て中国系の女優 (順に Joan Chen, Ming-Na, Lucy Liu) が出演しており、作中で演じる役柄も中国系として設定 (役名は順にジョセリン・バックカード、ジンメイ・チェン、リン・ウー) されている。

表象分析は、時に主観性の問題が指摘されることがある (藤田 2006; 藤田、岡井 2009)。そこで本研究では、客観性を担保するため、実際にドラマを視聴しながら、アジア系女優が登場する場面の会話を全て書き起こすことにした。書き起こした資料を元に、他の登場人物とのやり取りの中で繰り返されるパターンを抽出し、一覧が可能となるように表を作成するという方法を取った。

5. 「助けられる」アジア系女性

三作品に登場する中国系女性達は共通して、助けられる人物として描かれていた。*Twin Peaks* に登場するジョセリンは、母国、香港で出会った実業家の恋人、エッカードの元を去り渡米した後、新しい恋人のハリーと暮らしている。しかしエッカードは彼女に対する異常な執着心を見せ、香港で自らの事業の利益を上げるための陰謀を練り、彼女を脅迫して陰謀を遂行させていた。ジョセリンは苦痛と不安を抱えて怯えながら、彼の命令を実行する毎日を送る。彼女はエッカードから陰謀について口外しないと言われていたため、ハリーは彼女が怯える理由を知らない。しかし、ハリーは常に恐怖に戦く彼女を精神的に支え、守ろうとする。*ER* に登場する女性医師、ジンメイは、優秀で独立心が旺盛である。しかし、それ故に失敗や問題を引き起こしてしまう。その度に同僚で友人の男性医師、ジョンが解決に向けて手を差し伸べていた。*Ally McBeal* では、女性弁護士のリンが登場するが、彼女は「ドラゴン・レディ」とも称される (Sun 2003) ほど、攻撃的で冷酷な性格である。そのため、彼女の発する言動が周囲の人々の心情を害する可能性を孕むことがある。その時、同僚で友人の女性弁護士、ネルが彼女の言動を抑制し、他者を傷つけないように導こうとしていた。作品によってそれぞれ状況は異なるものの、3人の中国系女性達は共通して好ましくない状況から助けられる立場にあった。

一方の助けを与える側の人物は、米国社会で理想とされる価値観を身に付けた白人である。*Twin Peaks* でジョセリンを助けている恋人のハリーは、地域の安全のために困難に挑み続ける保安官である。彼は、開拓の精神を表すカウボーイハットを被り、

名前は第二次世界大戦の終結と戦後処理を担当した、第33代大統領の *Hany Tuman* と同名である¹。対外的に強い米国のイメージを彷彿とさせる人物だといえる。*ER*でジンメイを助ける医師のジョンは、経済界に影響を与える程の有力資産家の出身であり、米国の豊かな経済力を想起させる男性である。*Ally McBeal*では、誰もが羨む美貌を持ち、ブロンドの髪に高い身長、グラマラスな身体といった、ハリウッドが長年描き続けてきた美人の典型像を体現した女性、ネルガリンを助ける役割を担っている。このように、アジア系女性を助ける人物は、白人でありかつ米国で理想とされる概念を保有した人である。

6. アジア系女性像の社会的機能

古くから、映画上で異人種間の男女の恋愛が描かれる際には、*Salvation Narrative*（救済物語）の構造が頻繁に用いられてきた。この物語では、白人が異人種の恋人を退廃的で邪悪な文化から救済する物語構造がとられる。こうすることによって、白人が絶対的なものとして位置づけられ、その優位性が確立されるという（Marchetti 1993）。本研究で取り上げた三作品の中国系女性達は、白人達と必ずしも恋愛関係にあるわけではないし、邪悪な文化から救われるわけでもない。しかし、理想的な米国社会の価値観を体現した白人が、中国系女性を助けるという構造からは、「強く」、「正しい」白人と「弱く」、「間違った」中国系女性という権力の不均衡が浮かび上がる。ここには、*Salvation Narrative*と同様、白人の絶対的な優位性が確立されているといえる。優位性を持った白人は、「弱く」、「間違った」中国系女性よりも支配的な地位を与えられることになる。一方の中国系女性は、白人の監視下に置かれる、つまり、主体性と自由を剥奪され、従属的な立場に立たされるということである。同時に彼女達の従属的な立場は、きわめて自然なものとなる。

このような表象は、中国系女性、ひいてはアジア系女性が米国内で歴史的に置かれてきた従属的な立場を正当化する。19世紀半ばから20世紀初頭まで、ゴールド・ラッシュと共に発展した米国西部では、多くの労働力を必要としており、中国、日本、韓国などから多くのアジア系男性が出稼ぎに来た。米国側は、アジア系男性の移民は受け入れるが、住居や食料、教育に掛かる資金を削除する目的を背後に隠しながら、その家族の女性（妻や子供）の移民には厳しい制限をかけた。第二次世界大戦の初期頃まで、アジア系女性移民の数を制限する法律が次々と制定され、アジア系男性の数と女性の数に落差が生じる結果となった。周囲に女性がいないアジア系男性は生きていくために、「女性の仕事」とされる掃除、洗濯、炊飯などの家事をしたり、時にはこれらを職業としなければならない環境になり、米国社会の中で「女性化」される存在となった。彼らの怒りや抑圧は、男女による移民制限が撤廃された後、女性に向かうことになる。移民制限の撤廃により、アジア系女性達は夫が住む米国に行くことが可能になったが、そのうちの多くが、自らの権威を取り戻したいと考え父権的な振る舞いをする男性に抑圧されるようになる。1960年代の公民権運動で、アジア系女性達が男性から抑圧された自身の立場を訴えようとすると、アジア系の差別解消の妨げになるとして男性側から敵視され、彼女達の声は社会に十分に届けられなかった。アジア系女性は、白人男性を最上位とし、次に白人女性、アジア系男性、最下位にアジア系女性が位置付けられる人種と性別の階層の底辺に留まるより術がない状況にあった。今日では徐々に状況が改善しているものの、この階層構造は基本的に変化していない。このようなアジア系女性の従属的な立場には、アジア系男性が保持した父権的な文化も関連しているものの、その元となる原因を作ったのは、差別的な移民法を制定し続けた白人の権力者だといえる（Espino 1997）。

メディアが提供する情報は、人々の認識の中に世界観、つまり「社会的現実」を形成する。人々はこの社会的現実を元に思考し、行動することになる（Festinger 1950）。テレビドラマ上で、アジア系女性を白人から助けられる人物として描くことで、「弱く」、「間違った」彼女達は白人の支配下に置かれ、従属的な立場に立つことが自然なものとなる。こうした表象は、米国の歴史上において、白人側が「弱く」、「間違った」アジア系女性達を差別的な管理下に置き、従属的な立場に導いたことに正当性を与えることとなる。加えて、今後もこのような立場の差が継続していくことが、望ましいとする人々の認識を形成する社会的機能を持つのである。

補注

注1. 本作品の製作者自身が、意図的に彼の名前を *Hany Tuman* と名付けた。

参考文献

藤田真文（2009）『ギフト、再配達—テレビ・テキスト分析入門』せりか書房。

- 藤田真文,岡井崇之編 (2009) 『プロセスが見えるメディア分析入門:コンテンツから日常を問い直す』 世界思想社.
- 村上由美子 (1993) 『イエロー・フェイス ハリウッド映画にみるアジア人の肖像』, 朝日新聞社.
- Espino, Yen Le (1997) *Asian American Women and Men: Labor, Laws, and Love*, Sage Publications.
- Feng, Peter X, ed. (2002) *Screening Asian Americans*, Rutgers University Press.
- Festinger, L. (1950) "Informal social communication", *Psychological Review*, 7, 271-282.
- Hamamoto, Darrell Y. (1994) *Monitored peril: Asian Americans and the politics of TV representation*, University of Minnesota Press.
- Lee, Joann Faung Jean (2000) *Asian American actors: oral histories from stage, screen, and television*, McFarland & Co Inc Pub.
- Lippmann, Walter (1922) *Public Opinion*, Macmillan Company. (『世論 (上) (下)』 掛川トミ子訳, 岩波文庫, 1987.)
- Locke, Brian (1998) "Here Comes the Judge: The Dancing Jits and the Televisual Construction of the Enemy Asian Male," Tones, Sasha ed., *Living Color: Race and Television in the United States*, Duke University Press, 239-53.
- Marchetti, Gina (1993) *Romance and the "Yellow Peril": Race, Sex, and Discursive Strategies in Hollywood Fiction*, University of California Press.
- Mastro, Dana E. and Greenberg, Bradley S. (2000) "The Portrayal of Racial Minorities on Prime Time Television," *Journal of Broadcasting & Electronic Media*, Fall, 690-703.
- Ono, Kent A. and Pham, Vincent N. (2009) *Asian Americans and the Media*, Polity.
- Park, Jane and Wilkins, Karin (2005) "Re-orienting the Orientalist Gaze," *Global media Journal*, Vol.4, Issue 6.
- Praso, Sheridan (2006) *The Asian Mystique: Dragon Ladies, Geisha Girls, & Our Fantasies of the Exotic Orient*, Public Affairs.
- Shimizu, Celine Parrenas (2007) *The Hypersexuality of Race: Performing Asian/American women on screen and scene*, Duke University Press.
- Sun, Chyng Feng (2003) "Ling Woo in Historical Context: The New Face of Asian American Stereotypes on Television," *Intercultural Communication Studies* XV, vol.1: 87-93.